

■都市計画変更ルート案の比較検討表

比較案	左岸平面案	トンネル案	左岸半地下案	左岸盛土案
イメージ図				
概要	都市計画変更を前提として、河川の左岸堤防際を通過する案。	現在の都市計画道路の中心線に従い、河川横断部及び並走部をシールドで通過する案。	左岸平面案と同じルートで、出津橋前後を半地下構造とすることで出津橋の人流を立体で横断させる案。	左岸平面案と同じルートにおいて、元荒川新橋取付部から大間野南荻島線までの区間を盛土構造とすることで出津橋の人流を地下横断させる案。
延長	土工 1,210m 橋梁 90m 計 1,300m	シールド 1,270m ボックス 455m 擁壁 360m 計 2,085m	土工 890m 半地下 320m 橋梁 90m 計 1,300m	土工 1,210m 橋梁 90m 計 1,300m
アクセス機能 渋滞 交通事故	<ul style="list-style-type: none"> 地域の主要道路との接続が可能(渋滞緩和や交通事故削減に寄与) 沿道との接続も可能(大規模災害時への備えとして地区の防災力が向上) 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の主要道路及び沿道との接続が不可 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の主要道路との接続が可能(渋滞緩和や交通事故削減に寄与) 沿道との接続は制限されるとともに道路冠水の恐れがある。(大規模災害時への備えとしての防災力の向上は劣る) 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 大間野南荻島線道路への接続が出来ない。 沿道との接続は制限される(大規模災害時への備えとして地区の防災力の向上はやや劣る)
用地への影響	<ul style="list-style-type: none"> 用地買収対象者が多い。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 用地買収対象者は少ない。 地上への取付け部で側道や迂回路の整備に伴う用地買収が必要になる。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 用地買収対象者が多い。 構造物の設置困難な区域を避けた場合、さらに用地買収対象者が増える。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 用地買収対象者が多い。 盛土構造に伴い車両の出入りができなくなる土地が生じ、側道整備のための用地がさらに必要となる。
構造・施工	<ul style="list-style-type: none"> 土地の改変(掘削や盛土)が少なく施工性に優れ、工期も他案より短い。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川の地下に縦断的な構造物を設置することは河川管理上、不可。 冠水の恐れがあり、排水ポンプの設置が必要。 地上への取付け部が既存の主要な道路に干渉するため、施工が困難。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 構造物の設置困難な区域に半地下構造が干渉 冠水の恐れがあり、排水ポンプの設置が必要。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模な盛土の施工に伴って地盤改良が必要となり、工期も長くなる。
環境・景観	<ul style="list-style-type: none"> トンネル案に比べ、大気・騒音・振動の面で環境への影響が大きい。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 北越谷地区では、現在の環境が確保される。 換気塔の設置により、景観や日照・眺望を阻害。 地盤沈下や地下水への影響について検討が必要。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 半地下区間では、左岸平面案に比べ、騒音・振動の面で環境への影響が小さい。 半地下区間において、地盤沈下や地下水への影響について検討が必要。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 眺望を阻害し、圧迫感が生じる。 土地の改変(盛土)が大きく、地盤沈下や液状化による周辺住宅への影響が懸念される。
地域の分断	<ul style="list-style-type: none"> 浦和野田線を横断するために交差点や横断歩道による処理が必要になる。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 北越谷地区では、地域分断は生じない。 地上への取付け部では、擁壁等の構造物や側道設置に伴う地域分断への影響が大きい。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 出津橋の付近の人流について、道路を立体的に横断できることから、既存の交通がおおむね確保される。 構造物の設置困難な区域を避けた場合、河川と道路との間に住宅が取り残される。 	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 河川の堤防より高い道路が整備されることにより、分断のイメージが強くなる。 出津橋付近の人流について、道路を立体的に横断できることから、既存の交通がおおむね確保される。
事業コスト (左岸平面案を1とした時の比率)	1.0	4.0	1.2 ~ 1.3	1.3
総合評価	○	×	△	△
	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施上の課題が他案と比べ少ない。 環境・景観に対しては、植樹の整備などによる対策が検討可能。 出津橋付近の円滑な横断方法を検討可能。 工事費が最も安価 	<ul style="list-style-type: none"> 各種基準による構造上の制約や地域分断の影響が非常に大きい。 地域の主要道路との接続ができず、渋滞緩和効果や交通事故削減が期待できない。 工事費が最も高くなり、維持管理費も高額となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 出津橋付近の円滑な人流は確保されるが、河川に与える影響及び北越谷地区の用地へのさらなる影響が課題。 環境や景観に対しては、植樹の整備などによる対策が検討可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 大間野南荻島線と接続ができず、渋滞緩和効果や交通事故削減効果が他案に比べ劣る。 他案と比較して、河川環境・景観に与える悪影響が大きい。